

古代の人の死生観を体感できる横穴墓

のの子谷横穴墓群（出雲市湖陵町）調査年 2015（平成 27）年

渡部麻生

子供の頃、かくれんぼをしたことがある人はどれくらいいるでしょうか。私は暗くて狭い場所に入るのが怖かったので、かくれんぼは苦手な遊びでした。平成 27 年の暮れ、横穴墓の玄室の中から見える外の景色を眺めながら頭をよぎった思い出です。

のの子谷横穴墓群は、出雲市湖陵町の低丘陵斜面に横方向の埋葬施設を造る 2 支群 12 穴からなる横穴墓群です。近所の方によると、昔から横穴墓があることは知られていて子供の遊び場になっていたそうです。もちろんかくれんぼには絶好の場所だったでしょう。

10 月半ばに発掘調査が始まり、長い年月の間に溜まった落ち葉や土砂などの堆積物を取り除くと、砂岩系の布志名層に掘られた横穴墓が姿を現しました。残念ながら全て後世に開かれていましたが、古墳時代の埋葬の様子がわかる手がかりがわずかに残されていました。

1 号穴からは横穴墓の造られた古墳時代終末期の須恵器蓋坏の他に、12～13 世紀の土師器皿、鉄刀がみつかります。なぜ古墳時代のお墓から中世の遺物が見つかるのか。

それは、中世のが横穴墓をお墓として再利用したからです。人の骨を含む古墳時代の遺物は全て外に掻き



のの子谷横穴墓群

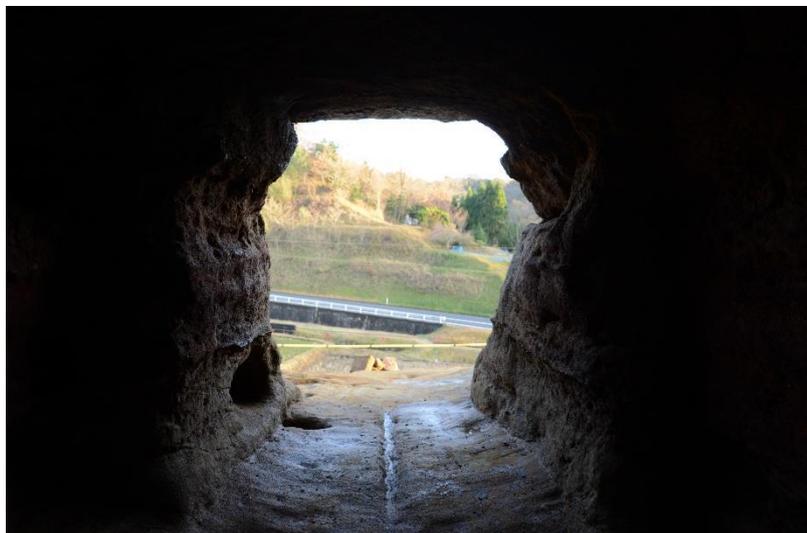
出され、清浄な空間にしてから新しく埋葬したと考えられます。こうした再利用の例は松江市内の横穴墓でもみられます。

一方で、玄室からは出雲西部の横穴墓の特徴がわかります。天井や両側の壁に、一定の幅（工具の刃の幅）で上部から下部にかけて均一に削り降ろされた加工の痕は、肋骨状加工痕ろっぽうじょうと呼ばれています。冒頭の玄室内から見た景色は、この肋骨状加工痕などの細かな実測していた時に、ふと顔をあげて目に入った光景でした。夕日が眩しく、外は別世界のように感じました。

調査後の冬、鹿児島でもう一度この光景を目にします。地下式横穴墓の内部を見学する機会があったのです。地下式横穴墓とは九州南部、特に宮崎県南部から鹿児島県東部に特有の、4世紀末頃から7世紀代にかけて地表面の下に造られた埋葬形態です。真っ暗な地下式横穴墓の中から顔を上げると、地表から注ぐ太陽の光が眩しく、暗闇の死者の世界から生き返ったような気持ちになったものです。

地中に空洞の埋葬施設を持つ墓制は、5世紀後半には山腹に玄室を造る横穴墓として九州北部で展開し、6世紀後半になると出雲西部にも伝わりました。700 km以上離れた出雲と鹿児島の横穴墓で同じ経験をした私は、古代の人々の気持ちが少しわかった気がしたのです。

(文化財課世界遺産室 専門研究員)



玄室から見える景色